

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 **かたくり**)

事業所番号	0691500060		
法人名	社会福祉法人長井弘徳会		
事業所名	グループホームリバーヒル長井館町		
所在地	山形県長井市館町南9-72-10		
自己評価作成日	平成 31年 2月 9日	開設年月日	平成26年 6月 2日

活気あふれる商業施設の中に当事業所はあります。近隣のスーパーや商店からの買い物や地区行事への参加、保育園児の慰問通して地域の方々と交流がもてるよう配慮しております。各ユニットでは菜園がありその成長と一緒に眺めたり手入れをしながら会話を楽しみ収穫した野菜と一緒に調理しながら季節を感じ、毎日のリハビリ体操やテレビ体操、レクリエーションを通して健康維持に繋がるよう関わりを持っております。カンファレンスではたくさんの目でその人の思いや希望を汲み取る事が出来るよう職員全員でアセスメントを行い、入居者のみなさんがいきいきと生活を送ることが出来るよう支援しております。法人内に5棟のグループホームがあり、合同で研修会を行うと共に職員全員でアセスメントすることにより気づきの目を養い個々のスキルアップ、チームとしてのレベルアップへと繋がるよう努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 31年 3月 20日	評価結果決定日	平成 31年 4月 10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「笑顔あふれる暖かい我が家」を目指し、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう職員は利用者一人ひとりの思いや意向、生活全般の情報収集を全員で行い、多くの視点から意見や気づきが得られ分析力も上がり、利用者がいきいきと暮らせるよう努めています。地域との関わりを大切に、職員は行事や清掃活動に積極的に参加し、事業所には祭り神輿や保育園児の訪問があり、双方向的な交流が広がっています。法人内の教育委員会では年間研修計画をつくり、講師を招いての研修も実施し質の向上を目指しています。職員の理念の実践状況を確認し年度末にホーム長との個別面談を行い評価し、全職員が介護福祉士を取得しており、利用者に寄り添った質の高い支援に取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	設立時に職員の思いや考えをまとめた理念を事業所内に掲示し、年度初めに職員全員で見直しを行っている。現在の所変更はなく、自分たちの目指すケアとしてネームの裏にもはさみ、意識付けを行い、理念に添った関わりが出来ているか、ケース検討会などで確認している。	開設時の思い(笑顔あふれる暖かい我が家)を大事にし、職員は理念についての取り組みや考えを話し合い利用者に寄り添ったケアを心掛けている。年度末には職員がホーム長と面談し個別目標の達成度確認等を行い、更なる理念の実践に向け努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回子供会主催の資源回収の際には古紙を提供している。また地元の神社例大祭では黒獅子がホーム前まで来て頂きご祈禱をいただいた。職員のみではあるが、地域の神社境内清掃・防災訓練・さいとう焼きへの参加や保育園児の慰問、年度末の餅つき会では推進委員の皆様を招いて開催している。	法人は多くの事業を展開しており、すでに開設しているグループホームとの関わりができており地域からの受入れがスムーズで職員は神社の清掃・廃品回収・地域の防災訓練への参加など、また黒獅子と子ども神輿・保育園児の来訪で地域住民と交流を図り、地域の一員として認めて貰っている。運営推進会議出席時には利用者や職員の介護の様子を見て貰い認知症の理解を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中でホームでの入居者の方の様子を伝えながら認知症の方への支援のあり方を伝えている。また、外出時や受診の付き添い時には自分たちの対応の仕方から支援のあり方を地域の方に理解していただけるように働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政より地域包括支援センター職員、地域代表より民生委員、家族代表の方、ホーム職員とで2ヶ月に1度会議を開催している。ホームの運営状況や入居者の日頃の様子などの報告を行い、委員の方からは行政の動きや地域の状況などを伺い質問や要望など自由に意見交換できる場となるよう努めている。その意見から質の向上へ繋がるよう努力している。	2か月に一回、家族代表・民生委員・市包括支援センター職員・理事長・施設長・ホーム長参加のもと情報交換や意見をもらい事業所運営に活かしている。会議録は全職員に周知を図り、出席していない家族等には広報紙やたよりの中に記載し理解を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて市職員より行政の動きや他事業所などの情報を頂き意見交換を行っている。地域包括支援センターへ出向している法人職員からも行政の動きや地域住民の現状等も教えて頂いている。入居を希望されている方からの質問に対しての相談を行政に確認したり協力関係を築けるよう取り組んでいる。	当法人から市包括支援センターへ出向している職員から情報を得る事もあり、また市へ直接出向いたり、電話で問い合わせるなどして相談に応じて貰い、良好な関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	法人の研修会に参加した職員よりスタッフ会議にて伝達講習を行ったり、資料を配布する・更衣室へ身体拘束禁止行為の明示・身体拘束委員会を立ち上げ現在の状況を話し合い、スタッフ会議で職員へ伝達を行うなど職員それぞれが知識と理解の向上へとつながるよう働きかけている。入居者の立場となって考える場を持ち入居者がのびのびと生活していただけるような環境作りを心掛けている。	法人の中に身体拘束委員会を立ち上げ、職員は身体拘束をしないケアについて研修で学び、スタッフ会議で周知を図っている。国で示している指針に沿い禁止行為や具体例についていつでも確認できるよう更衣室に掲示し、自分のケアを振り返りながら利用者が安心して気持ちよく暮らせるよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の研修会に参加した職員よりスタッフ会議にて伝達講習を行ったり、資料を配布するなど職員それぞれが知識と理解の向上へとつながるよう働きかけている。職員間でも相談しやすい雰囲気作りを心掛け、虐待防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習する機会は無かったが今後のスキルアップの為機会を設け実施していきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居が決定した際、事前に契約書・重要事項説明書を家族へ渡し内容を確認して頂き、入居当日も説明し署名・押印を頂いている。質問など納得していただける返答が出来るように努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中でご家族代表の方より意見や質問、要望等頂く場を設けている。また、ご家族の方も参加して頂く行事の際や面会時等個々に会話をしながらご意見や要望をサービスにつなげている。ホーム内には意見箱を設置しいつでも投函出来るように準備している。	家族等からは運営推進会議の場や個別には面会時や行事で来訪した時に意見や要望等を伺うようにしている。目標達成に上げて取り組んできた家族等とのコミュニケーション能力を向上させて何でも気軽に話し合える関係ができています。各ホーム入口に意見箱は備えているが、些細なことでも言える環境づくりを大事にしてリスクを減らす対応を心掛けている。出された意見は事業所内に掲示し開示している。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議で意見や提案を職員間で話し合いながらサービスの質の向上へと繋げている。また、会議以外でも気軽に相談できる環境作りや口頭・伝達用紙等を活用し情報共有に努めている。運営に関しての悩みや方向性の確認など随時エリア部長へ相談・助言を頂き職員へ伝達している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長と面談の機会を設けている。また、普段何気ない会話の中から悩みや意見等確認し職員の思いを汲み取っている。行事や業務を通して職員の努力と実績の把握をしながら各自が向上心を持って働けるよう環境作りを心掛けている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日頃より職員間で情報を共有しながら個々のスキルアップやチーム全体の底上げにつながるよう取り組んでいる。法人内の教育委員会主催の年間研修計画をもとに個々の力量に添った研修会に参加したり5棟あるグループホーム合同の実践的な研修の場を設けている。	法人内の教育委員会主催の年間計画に沿って参加し、その後伝達研修で共有し、都度アンケートで理解度を図っている。今年度はグループホーム合同の実践的研修で講師を招いて「老人の性について」の研修を実施し、日頃タブー視されていることへの話が聞かれて参考になったとの声がかかっている。ホーム長・主任介護士を中心にケアについて職員と常に話し合う姿勢を大切に質向上に繋いでいる。全職員が介護福祉士を取得しレベルをあげている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県グループホーム協議会や置賜ブロック会による会議や交流会に参加して他事業所との交流を図り情報の交換を行っている。また、交換実習にて他事業所での取り組みを実施し現場に活かすよう努めている。	法人5棟のグループホーム研修会、山形県グループホーム連絡協議会、置賜ブロック協議会に参加して情報交換を行っている。加入している事業所と交換実習を行っており、良い取り組みは参考にし、また自分たちの良いところに気づくことで自信に繋がっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設内見学や自宅への訪問を積極的に行い、本人の困っていることや要望などに添えるよう本人の思いを汲みながら対応している。ご家族の不安や希望をセンター方式のシートに情報を記入して頂き、また、その思いに耳を傾けながら入居の際には安心されるよう事前把握に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安に思っていることに耳を傾け安心していただけるよう努めている。また、話し合いの中から今後の方向性について考えながら要望を伺い、信頼関係が築けるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族との話し合いの中でご本人が必要としている支援は何かを考えながら何よりも穏やかに過ごしていただけるよう努めている。本人や家族への思いを伺いながら少しでも環境に馴染めるよう努めている。また、在宅生活のケアマネージャーとの連携を図り必要なサービスの提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に理念である「笑い声あふれる暖かい我が家」を念頭に、職員一人ひとりが入居者個々とのより良い関係性に努めている。個人の状況・状態を把握しながらその方にとって穏やかで安らげる生活はなにかを思い信頼を築けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や面会などでご家族の来訪時には日常のご様子を報告している。その中でご家族と一緒に入居者の立場になり考え、理解を深める様対応している。また、変化があればその都度電話にてお伝えするなど信頼関係を築けるよう努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人の訪問時には、ゆっくりと過ごしていただけるように居室の環境を整えている。四季折々の場所にでかけたり祭りなどのイベントにもでかける機会を設け楽しんでいただけるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性を活かしながらお互いを認め合えるように食席等に配慮している。お茶会やレクリエーションを通してより良い関係性ができるように職員が間に入り会話が弾むように橋渡しを行い関わりをもてるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去や、他施設へ入所された際、お見舞いや面会にでかけご本人の状況を把握している。家族とお会いした際には何気ない会話の中から情報交換を行い、相談があればいつでも受け入れる事ができる体勢をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いを汲み取りながらその人の言動や表情を毎日記録し、日々のケアにあたっている。センター方式を活用し、本人の思い・願い・何がしたいのか等を把握し職員間で情報共有しながらケアの実践を行いその都度信頼関係が築けるように努めている。	センター方式のシートを活用し、職員のほか家族等からも記入してもらい広い視点から利用者の生活歴や職歴、趣味などを把握している。夜間帯・日中帯に分けて毎日利用者の様子や気づきを記録し全職員で共有し、どう暮らしたいか、何をしたいかなど思いを確認して日々の暮らしを支えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅生活中のケアマネージャーやご家族から情報を頂く為センター方式シートの記入を依頼しこれまでの生活環境・入居者の家族への思いを記入して頂き、職員一人ひとりが適切なケアを行えるように努めている。家族面会時には疑問点があれば都度確認し職員間で情報交換を行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の体調や生活リズムに合わせてレクリエーションや作業を提供している。その中で残存能力などの現状把握に努めている。1日の過ごし方や生活リズムを把握し体調の変化が見られた際にはすばやく気づく事が出来るように常に状態観察に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式C-1-2シートを皆で作成することにより職員全員が目で見ることにより入居者が何を望んでいるかより深く理解し、現在の課題や思い・希望を汲み取ったケアプラン作成に努めている。家族と本人の気持ちを聞きケアプランに活かしている。	センター方式シートから得られた情報や3か月ごとの評価でサービス計画の達成度を確認し、家族等の意見も参考にして利用者の機能維持を図っている。計画は担当職員が立案し、最終的に計画作成者が完成させている。職員が関わることでより具体的に理解することができ利用者のサービスに反映させることができている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況や言動・表情・心身などの記録を行い、情報共有に努めている。3ヶ月に1度ケアプランを評価しながら実施状況を確認し、見直しを行っている。ケアの中で気づいた時などは伝達用紙に記録し職員間で情報を共有しながら実践や見直しに活かしている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	館町エリア夏祭りなどの行事では各事業所がまとめて準備を行い地域の方、ご家族の方にも参加を頂き館町地区の施設を地域資源として理解いただけるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医への定期的な受診を行っている。日常生活の様子、心身の状態の変化等は受診時連絡表を活用し主治医にお知らせし指示を受けている。家族付き添いが困難などときには施設職員が同行し適切な医療が受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医は希望どおり継続し、家族等付き添いで受診している。受診時連絡表に状況を記載して渡し、結果を記入してもらい、担当者が介護録に記入して共有を図っている。事情によっては職員が付き添い安心して受診している。担当者が配薬してユニットで保管し、複数のチェック体制で誤薬を防止している。</p>	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携看護師を配置し週1回健康管理を行っている。状態の変化時には速やかに助言を受け適切な対応を取っている。</p>		
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時に必要な情報の提供を行い、退院時には必要な情報収集を行いご本人・ご家族が安心できるようにしている。また、電話や訪問を行い病院との連携を蜜にしている。</p>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>医療連携看護師の配置により看護ケアが行なえる体勢が整っている。現在1名の方が看取りケアの対象となっている。今後もご本人・ご家族が安心できるように十分説明し相互理解を得られるようにしていく。また、職員のスキルアップの為マニュアルの確認や研修会等を行っている。</p>	<p>利用開始時に終末期ケアについて利用者・家族等に説明し理解を得ている。機能低下や食事が摂れなくなってきた時には、主治医・看護師・家族等と話し合いを持ち、利用者にとって一番良い方法を考え対応し関わり合う体制を整えている。事業所では看取り経験はまだないが看取り研修やマニュアルを整備し力をつける努力をしている。</p>	
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルに基づき事業所独自で訓練を行い実践力・対応力の向上に努めている。また、マニュアルはすぐ確認できる場所に明示している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価			
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署指導のもと、総合的な訓練を実施している。その際には運営推進委員の方にも参加を頂いており、事業所独自でも毎月訓練を行っている。地域防災訓練へ参加し地域との連携・コミュニケーションを取るようになっている。		年2回の総合訓練は日中・夜間の火災を想定して館町エリア全体で実施している。毎月、事業所独自の訓練をしており消防署からの講評も活かしている。運営推進会議のメンバーも参加しており、地区長を中心に緊急時の連絡連携は取れている。長井市館町南地区と防災協定を結んでおり地域防災訓練にも参加している。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを意識しながら個人の人格を尊重し声がけや関わりについて配慮している。また、入居者の立場になって対応するよう心掛けている。不適切な対応が無いよう、ユニット会議でも声がけの方法や関わり方について話し合いを持ち、尊厳やプライドに配慮したケアに活かせるよう努めている。		利用者の話をゆっくり聞きながら、一人ひとりの思いや誇りを引き出し、プライバシーを損なわないよう対応している。言葉の掛け方使い方などの接遇については、スタッフ会議の時に話し、人生の先輩である事を強く意識して、尊厳を守り支援する事を実践している。			
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いを表現できるように思いをくみとりながら環境づくりを行い自己決定出来るように尊重している。		/			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく生活ができるよう希望や体調に合わせて食事の時間を遅らせたり入浴の際は希望の時間を選択して頂くなど、自分のペースで過ごせるよう環境に配慮して関わりを持っている。					
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台の脇に櫛や化粧水などが入ったご本人のかごを準備している。毎日個々の可能な範囲で整容を行い、届かない所は支援している。月1回の床屋も入居者の希望を伺いながら実施している。					
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を感じていただけるよう行事や旬の食材を使用し工夫している。本人の嚙下の様子や嗜好に合わせて代替品を準備したりしながらバラエティーに富んだ温かみのある食事を楽しめるよう支援をしている。				各ユニットで献立を決め食材は職員が調達している。利用者には出来ることを手伝ってもらい調理し、食事形態に応じて提供している。漬物バイキングや干し柿作り、また、食べなれた行事食などを取り入れ食事に関心を持てるよう工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態、力、習慣に合わせて食事形態を変え対応している。食事摂取量・水分摂取量が必要な入居者にはその都度記録や口頭を通してスタッフ間で申し送りをしながら把握に努めている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアの声がけ介助を行っている。義歯の不具合が生じた際はご家族に相談し歯科受診、または、往診へとつなげている。義歯洗浄は週2回実施している。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者一人ひとりに適した声がけ、誘導を行っている。尿量や排泄状況を観察して職員間でも相談しながらその方にあったオムツ類を使用している。	法人で統一している排泄チェック表を活用して排便・尿量の記録をして、おむつ類を決める参考にしている。声がけの時は耳元で聞いたり、ホワイトボードに書いて誘うなど羞恥心に配慮している。自立の方も多くトイレで排泄することを大切に支援している。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の排便状況を確認しオリゴ糖入の牛乳を提供したり腹部マッサージ等を実施している。また、午前中に入居者全員でリハビリ体操をしたりお茶の時間には2杯飲んでいただけるようお声がけし便秘予防に努めている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴前に事前に声がけを行い入居者と共に衣類を準備する。「今日は嫌だな。」と話された方には無理に誘わず時間をおいて誘ってみたり声がけを工夫している。	入浴前に脈と熱を計り身体状況を確認している。利用者の中には前もって心の準備が必要な方もおり、一緒に着替えを揃えるなど、負担感をやわらげるよう配慮している。世間話をしながら出来ないところを手伝いゆっくり湯に入ってもらおうよう介助している。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合った証明具合や温度など調整を行っている。また、足音や物音を出さないように心掛け、臥床の際には安心していただける様な声がけを行っている。自宅で使用していた毛布や湯たんぽを継続して使用されている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員二人で処方箋を確認し内服時も誤薬がないか十分注意し服薬している。薬の変更時には体調の変化や日中・夜間の状態を記録に残し次回受診の際に活かせるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや掃き掃除、洗濯物たたみ、食事の盛り付け等入居者の経験や得意分野を活かせるような作業をしていただいている。レクリエーションの時間を作りかた取りや歌唱、風船バレー等を行い楽しみを持てるような支援を行っている。		/	
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によって花見や紅葉見学などのバスハイクを企画し外に出て気分転換できる機会を作っている。また、受診のときは家族の協力を得て外出している。		各ユニットに畑があり手入れや収穫をし、また散歩がてら日常的に外気にふれる機会になっている。バスハイクで季節ごとの花見に出かけたり家族と外食するなど外出を楽しんでいる。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を自己管理出来る方はおられないが、出来ない方はホームの金庫にて現金預り証に記入して管理している。買い物の機会も減少しておりご自分で品物を購入する機会は得られなかった。体調や天候を見て個別での外出の機会を設けて楽しみを持った生活を送る事ができるよう支援していきたい。		/	
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人などから来た電話をご本人へつないだりお正月には年賀状を用意してご家族・親類・友人との関係が途切れないように支援している。ご子息様などより届いたはがきを職員と一緒に読み状況を知り昔話をするなど楽しい時間を一緒に過ごしている。		/	
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローアや廊下には季節ごとに生花や装飾を飾って入居者が共同で作成した思い入れのある作品が飾られている。毎日、温度・湿度は定時で確認し適切に管理されている。温かみのある色使いやレースカーテンを使用し適切な日差しが差し込むようにしている。冬季間は各居室やフローアに加湿器を設置しており、どこにいても湿度管理が出来るよう努力している。入居者はそれぞれのお気に入りの場所でゆったりと話をしたりくつろいでいる。		利用者がいつも過ごしているフロアには、季節がわかるような装飾を施し、皆で作った作品や個人の作品を展示することで自分の存在を確認でき、不安なく過ごせるよう心掛けている。リハビリ体操を毎日行い職員は笑顔を引き出せるように関わっている。畳コーナー・ソファ・食席などそれぞれが自分の居場所として使い、おだやかな暮らしを送っている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席の配置には入居者同士の関係性を重視し居心地良く過ごせる様配慮している。キッチン前に昇降テーブルを設置して入居者と一緒に調理の味見をしたり作業を行ったりソファやTVが置かれてあり自由に座ったりTVを見て過ごすことが出来る。		/	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベットとダンスが備え付けてある。自宅で使い慣れている枕や毛布・鏡・椅子など持ち込み居室の壁面には家族との写真など飾られている。馴染み深いものに囲まれた空間で居心地良く過ごすことが出来るよう配慮している。	居室にはベッド・ダンス・消灯台が設置されており、利用者の使い馴染んだ物を持ち込んでもらい、暮らしやすい部屋作りをしている。職員はダンスの中の整理、おむつの補充、清掃などに気配りして安心安全な暮らしを支えている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の体型にあったテーブルで食器拭き等の作業がしやすいよう調節している。各居室には氏名のプレートが明示されており、他の方との区別がつきやすいようにしている。洗面所の個々のカゴには愛用の櫛や化粧品等を入れて置くことができ、いつでも自由に使えるよう配慮している。各居室のカーテンも柄や色を変えて個々の居室とわかりやすいような作りになっている。			